

平成25年10月1日

会員各位

協会だよりー250(10月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 第219回月例会（一泊研修会）の開催。
日 時：10月11日（金）～12日（土）
見学先：①株式会社フジクラ佐倉事業所 ②DIC 川村記念美術館
宿泊先：鴨川グランドホテル
- 第28回 JSCRA 会
日 時：11月1日（金）
場 所：相模原ゴルフクラブ



長野姨捨の棚田風景（更科紀行の旅にて）

2013.9.20

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 第218回月例会が終わって
【予定事項】
- 三. CMAJとJCRAの幹部交流会の開催
担当者の交代お知らせ
- 四. 事務局より（十月度の予定）
- 五. 【雑学】おくのほそ道ツアー十二回
武生から大垣まで

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー249（9月号）をメール&郵便で送信（9／1）
- ② 第218回月例会（見学会）の開催
日 時：平成25年9月4日（水）13時～
見学先：旭硝子㈱千葉工場
懇親会：久松本店
- ③ 第三回運営委員会
日時：平成25年9月12日（木）16：00～17：00
場所：堺化学工業㈱東京支店
出席：運営委員、第219回幹事会社、事務局
議題：1. 一泊研修会の運営確認。 2. その他

④ CMAJ と JCRA の会長、副会長、理事の交流会

日時：平成25年9月24日（火）17：30～

場所：JX グループ六本木クラブ

【予定事項】

第219回月例会（一泊研修会）の開催

日 時：平成25年10月11日（金）～12日（土）

見学先：㈱フジクラ佐倉事業所、DIC 川村記念美術館

宿泊先：鴨川グランドホテル

2. 第218回月例会が終わって

9月4日の水曜日、天気予報では関東南部は豪雨の予想でしたが、参加者皆さんの心がけが良かったのか見学前には瞬間的に雨となりましたが、五井駅を出発する頃には快晴となりました。

総勢40数名の参加になり、旭硝子様の提供によるバスは2台となりました。

以下の見学記は幹事会社・日誠金属㈱菊池昭宏さんにお願ひしました。

【見学記】

今回、私が参加した見学会は旭硝子㈱千葉工場。当初内房線の五井駅からタクシーでの移動の予定だったそうですが、旭硝子の方の計らいでバスでの移動。非常に助かりました。

内容は2部構成で始めに工場見学、続いて社内で行われている安全研修を体験させて頂きました。

まずは工場見学。メインは電解での苛性製造。イオン交換膜法で行っており、今年に出来た新しい電解設備を見学。更にその苛性製造に必要な原塩の置かれている所も見ました。原塩の置かれている場所は塩山と呼ばれており、実に山と呼ぶに相応しい量と広さに驚かされます。電解の設備はまだ新しいということもあるのですが、苛性ソーダを製造しているとは思えないほど綺麗な所で、塩山を土足で入ってしまった事で品位が落ちるのではないかと心配してしまうほどです。

続いて安全研修。殺虫剤でのスプレー爆発や火災伝播と呼ばれる「火が走る」ところなどを実技研修しました。私が一番前の席にいたのもありますが、一言、「こわい…。」です。

身近で使っているものでの体験でしたので、気をつけなければということを痛感しました。

トラッキングでの火災も実際目の当たりにしてみると、家庭でも会社でも再度ホコリが無いかなど注意してみなければと思い知らされます。

今回の体験は自分の身の回りの事での体験で、しかも普段出来ない体験でもあり非常に勉強になりました。最後に人材を“人財”という漢字を使っており、人を大事にするという会社の気質は是非とも見習わなければということを感じました。

勉強会終了後、当地の五井・久松本店にて参加者の懇親会が行われました。



第218回月例会（旭硝子㈱千葉工場見学）懇親会参加の皆様

3. CMA JとJCRAの幹部交流会の開催

触媒工業協会と触媒資源化協会の幹部交流会は会長・副会長・事務局で7年前より続いています。今年度は協会各委員会の委員長を加えた14名の拡大交流会を行うこととして、9月24日、午後5時過ぎよりJXグループ六本木クラブで開催いたしました。出席者は以下の方々です。

JCRA：会 長 三浦 章 (JX日鉱日石金属㈱)、副会長 細田顕治 (松田産業㈱)、
副会長 宮崎隆史 (㈱徳力本店)、調査・技術委員長 水野光男 (アジア物性材料㈱)、
広報委員長 尾沼 涼 (ジョンソン・マッセイ・ジャパン)、運営委員長 (代) 佐藤邦彦 (日誠金属㈱)、
専務理事 小林尚道。

CMA J：会 長 小野博信殿 (㈱キャタラー)、副会長 松久敏雄殿 (クラリアント触媒㈱)、
副会長 市石知史殿 (田中貴金属工業㈱)、運営委員長 水澤浩二殿 (日揮触媒化成㈱)、
技術委員長 小川芳則殿 (川研ファインケミカル㈱)、斉藤和久殿 (日揮触媒化成㈱)、
事務局長 中本博美殿。

月例会での勉強会を、より盛大にするため、両協会が協力してトップクラスの講師をお呼びし、一般の方々にも低廉な聴講料で公開しては如何という案が提出されました。今後、両協会の事務局と委員会委員長クラスで集まり検討することになりました。

4. 担当者の交代お知らせ

● 担当者の交代

① JX日鉱日石金属株式会社 (広報委員会委員)

新井 智氏⇒ 小島直樹氏

新井さんはパンパシフィックカップー㈱大阪支店長に成られ転勤されたため、担当及び広報委員を小島直樹氏と交代いたしました。9月4日の月例会に出席され挨拶を頂きました。

5. 事務局より (10月度の予定)

月	火	水	木	金	土
9/30	1	2	3	4	5
×	○	×	×	○	×
7	8	9	10	11	12
×	更科紀行の旅2		○	第219回月例会 (一泊)	
14	15	16	17	18	19
体育の日	○	×	×	○	×
21	22	23	24	25	26
×	○	×	×	○	×
28	29	30	31	11/1	11/2
×	○	×	×	○	×

事務局延べ出勤予定：10日 (○；終日、△；半日、×は休日)。

6. 【雑学】奥の細道（12-2）武生から大垣まで

北国グランドホテルのベランダより敦賀の街を俯瞰する。

出発前、宿のベランダより見える街は多少霞がかかっていますが、今日も天気良好です。朝食後8時10分バスはスタート、今日の見学一番目は街中にある気比神宮となります。

【気比神宮】敦賀市曙町 11-68

越前の国一ノ宮として知られ、気比の大鳥居は国重要文化財となっています。境内には芭蕉さんの像と句碑が建立されています。



気比の大鳥居



月清し
遊行の持てる
砂の上

この句は、おくのほそ道にも、往昔、遊行二世の上人、大願発起の事ありて…「これを遊行の砂持と申侍る」と亭主のかたりける。と記述があり、其の昔、遊行真教上人は気比神宮の参道がぬかるみ、参詣の人々が難渋していたので、砂を運んで参道を整備したという謂れから詠んだものです。



気比神宮本殿と右は「なみだしくや 遊行のもてる 砂の露 (気比神宮 露塚・句碑)」



亭主の言うとうり、越路の天気は予想がつかないようだ。翌 15 日は雨とあります。そこで詠んだ句が「名月や 北国日和 定めなき」です。

桜町の市民文化センター前には、昭和 38 年に発見された宮崎荊口句帖「一夜十五句」にある句が



国々の 八景更に 気比の月

芭蕉翁「月塚」句碑となっています。

曾良さんは芭蕉さんに先行して 10 日に出雲屋弥市良を訪ね、芭蕉さんへの金子 1 両を預けています。また 11 日に天野屋五良右衛門に芭蕉さんへの手紙を託して敦賀を出発しています。現在では天野屋跡は有料駐車場になり、出雲屋跡は洋風の「レストランうめだ」となっています。



蓬萊町の天野屋跡



相生町のレストラン「梅田」

さてバスは街中、気比の松原を通過し、敦賀半島に沿って色が浜を目指します。その前に「常宮神社」に途中下車します。

【常宮神社】敦賀市常宮 13

境内を清流が流れる常宮神社は、丘陵を通る原発道路建設の計画に反対しています。皮肉にも神社の石碑、門柱の殆どは原発関連工事会社の寄進の様子です。ここには国宝「新羅鐘」があります。慶長 2 年、豊臣秀吉の文禄・慶長の役で撤退の折、朝鮮慶州の釣鐘一口持ち帰り、若狭藩主大谷刑部義隆を正使として奉納したものとされています。ここには芭蕉さんの句碑「月清し 遊行の持てる砂の上」がありますが、私には読み取れません。またここは昔、砂浜で小貝が拾えたそうですが、今は護岸のため取れなくなりました。



この神社の標柱も、原発会社、建設会社、機器製造会社の寄進です。



色が浜の本隆寺で詠んだ句に

- ・ 衣着て 小貝拾わん いろの月
- ・ 浪の間や 小貝にまじる 萩の塵
- ・ 小萩ちれ ますほの小貝 小盃

すまほの小貝は、成長した貝でも2mm程度と思われます。この貝は常宮神社で飾られていたものです。

【色の浜】 敦賀市船町

本隆寺「開山堂」前には西行法師ゆかりの地として、「潮染むる ますほの小貝拾うとて 色の浜」とは 言うにはあるらん」(山家集)の和歌があります。芭蕉さんの句は西行さんの本歌取りです。



寂しさや 須磨にかちたる 濱の秋(奥の細道)

本隆寺境内にある句碑二つ



左：小萩ちれ ますほの小貝 小盃

右：衣着て 小貝拾わん いろの月

本文に侘しき 法花寺あり。ここに茶をのみとあるお寺はここ本隆寺のことです。

本隆寺前の砂浜で、小貝拾わんとしましたが駄目でした。大高先生、山田さん、後数名が見つけたようです。色が浜までの街道（県道）は原発への通路ですが、砂浜や港はクルーザーの係留場所です。後はテトラポットの護岸が続きます。船宿多し、砂浜少なしの感じがします。船宿は原発工事者の宿所が設立理由のようでした。従って、原発休止の現在は閑古鳥が鳴いています。

【大原山西福寺】敦賀市原 13-7

敦賀市街地の西、大原山麓にあり、曾良の文学碑（曾良旅日記 8月10日）があります。



福井城主・結城秀康公の寄進で書院が建てられ 1400 坪にも及ぶ書院庭園は国の名勝として指定されています。西福寺の山門は高さ 30m はあろうか、コンクリート作りの巨大なものです。曾良の文学碑は目では読めるのですが、写真に撮ると天気が良すぎ、石の光沢が邪魔をして、私たちが写す鏡のようになって字は読み取れません。お昼になり昼食場所に直行です。午後はいよいよ長浜を目指します。幕末の混乱期に筑波山で旗揚げし、都を目指して進軍していた水戸の尊王攘夷過激派・天狗党が降伏し処刑された地が敦賀です。敦賀を離れる前に、市内松原神社横にある処刑された天狗党面々の土塚に参りました。首領・武田耕雲斎を初め 353 人もの浪士が斬首刑になりここに埋められています。幕末の水戸藩は激派（攘夷）天狗党、保守派諸生党の主導権争いで多くの人材を失いました。

【西村家】

滋賀県に向かう峠に茶屋を営む「西村家」があります。西村家は「おくのほそ道」素龍清書本（西村本）・重要文化財を保有しています。手に取ることも、写真を撮ることも禁じられていますが、貴重な原本を拝見させて頂きました。ここに撮った下の写真は、精巧ながら西村本のレプリカです。国道を挟んで茶屋の反対側にある西村家の自宅の庭には、蕉翁句集にある「松風の 落葉か水の 落と涼し」の句碑が建っています。おくのほそ道では詠んでいませんが、自宅の後ろに聳える山林が、その句を自然に受け入れられる思いです。



西村家にお別れし、県境を越え福井県からいよいよ滋賀県に入ります。しばらくバスに揺られ琵琶湖湖畔の長浜市に着きました。長浜は琵琶湖の北部に位置し、有名な竹生島も長浜の行政区域にあります。長浜は元々、今浜といわれていましたが、天正3年(1575)に羽柴秀吉の領地となり、長浜と命名しました。今でも、秀吉の作った街といわれています。鉄道が施設される明治の中頃まで、琵琶湖の水運を利用した港町として栄えました。繊維、プラスチック加工、産業機械等の工業が発達し、人口約6万3千人の年となっています。

【慶雲館】滋賀県長浜市港町2-5

明治の世に、明治天皇の行幸のおり、急遽、お泊りの御座所として突貫で建てられたといわれています。この庭には、琵琶湖西岸より運んできた高さおよそ4mほどの巨大な岩に刻まれた芭蕉さんの句碑が建てられています。慶雲館の内庭は枯れ山水の趣で、優雅な気持ちになる場所です。



蓬萊に きかはや伊勢の 初たより はせを (炭俵の句)

今日の宿泊は、琵琶湖畔にある長浜ロイヤルホテルです。大きなホテルで、ここにも中国、台湾の人たちが大きな声を出し、我が物顔で闊歩しています。私たちは、いよいよ明日、結びの地・大垣に入ります。翌朝は、先ず一番に良疇寺へ参ります。

【良疇寺】滋賀県長浜市下坂浜町8-6

良疇寺の住職によると、良疇寺は江戸時代、長浜の裕福層や武士階級の文化的サロンとして使われていたようです。境内にある「四方より 花吹入て 鵜の海」(卯辰集の句碑は元禄3年膳所の酒楽堂を訪れた時の挨拶句です。鵜の海とは琵琶湖の古名です。天保十四年に良疇寺でも催された句会の句集を所蔵しています。また琵琶湖大仏として約28mの大仏が建立されています。





良疇寺が所蔵する芭蕉翁像（江戸時代作）

琵琶湖を背に聳える高さ28mの琵琶湖大仏。三階建てになっている台座まで登ることが出来ます。



【史跡・姉川古戦場】長浜市浅井町野村区

徳川・織田連合軍と浅井・朝倉連合軍が戦い、徳川・織田連合軍が勝利した古戦場跡、野村橋の袂には芭蕉晩年の門人である彦根藩士・通称直江作右衛門光任の木導（もくどう）の「春風や 麦の中行く 水の音」の句碑が建立されています。江戸時代、姉川の中州では地元野村の農民が麦を作り、ここで作った麦は、素麺の名産地・播州までも聞こえ人気があったと言われています。



姉川の古戦場跡は近江鉄道の観光レトロバスで長浜より訪れることが出来ます。

【近江西国十二番・観音寺】滋賀県米原市朝日 1342

伊吹山を間近に眺める場所、伊富貴山観音護国寺といいます。山門より本堂までは樹木に覆われ、静かな山寺の趣があります。長浜城主の羽柴秀吉が鷹狩りで立ち寄った際、寺の小僧をしていた石田三成（当時の名前は佐吉）を「三碗の才」で見出したことで有名です。また山門の外には三成が秀吉に差し上げたお茶を入れた水の古井戸が残されています。

山門前には、花にもよらず、雪にもよらず 唯これ孤山の徳あり「其のままだに つきもたのまじ 伊吹山」（笈日記）の句碑が建立されています。観音寺の写真は次号で紹介いたします。

【文責・専務理事】